

モニタリング結果報告書（平成24年度上半期）

施設	設	葉山公園・はやま三ヶ岡山緑地
指定管理者		公益財団法人神奈川県公園協会
指定期間		H21.4.1 ~ H26.3.31
施設所管課		都市公園課（横須賀土木事務所）

1 今期の指定管理者の管理運営状況（2～10の結果を踏まえた判定）

B

<判定理由>

葉山公園では、海浜植物やクロマツ等の公園の特徴に配慮した良好な維持管理が行われている。また、海辺の自然観察会などのイベントを開催し、利用促進への取組みを行った。
 はやま三ヶ岡山緑地では、都市林として相応しい環境を維持・保全するために、園路脇の除草および支障枝の剪定を重点的に実施した。また、自生する野草の園路脇への移植により、公園の魅力向上への取組みを行った。
 両公園とも提案どおりの取組みがなされていることから、B判定とした。

- A：提案を上回る取組みを実施し、極めて良好な管理運営状況である。
- B：提案どおりに取組みを実施し、良好な管理運営状況である。
- C：提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、一部工夫が必要な面がある。
- D：提案どおりに取組みを実施していない。また、提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、抜本的な改善が必要である。

2 月例報告書によるモニタリングの概況

(1) 葉山公園

報告月	受理日	確認通知日	確認方法			指導等の有無	備考（指導事項等）
			月報確認	現場確認	電話確認		
4月	5月10日	6月4日	○	○	○	有	園内の照明灯が点灯していないとの苦情があったため、毎日、点灯確認を行うよう指導
5月	6月11日	6月29日	○	○	○	無	
6月	7月10日	7月30日	○	○	○	有	利用者より管理員の言葉づかいに対する指摘があったため、接客の仕方に注意するよう指導
7月	8月10日	8月29日	○	○	○	無	
8月	9月10日	10月9日	○	○	○	無	
9月	10月10日	確認中	○	○	○	無	

(2) はやま三ヶ岡山緑地

報告月	受理日	確認通知日	確認方法			指導等の有無	備考（指導事項等）
			月報確認	現場確認	電話確認		
4月	5月10日	6月4日	○	○	○	無	
5月	6月11日	6月29日	○	○	○	無	
6月	7月10日	7月30日	○	○	○	無	
7月	8月10日	8月29日	○	○	○	無	
8月	9月10日	10月9日	○	○	○	無	
9月	10月10日		○	○	○	無	

3 指定管理者が提案した取組み等の実施状況

(1) 葉山公園

	提案内容	実施状況
1	<p>公園における特性と課題を踏まえた維持管理</p> <p>(1) 花と景観の名所としての継承とその育成環境の保全と活用を図り、新たな魅力づくりを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハマナスを中心とした海浜植物の保護・育成 ・クロマツ等の枯損木・マツノザイセンチュウ被害木の処理、枯枝・支障枝の除去 <p>(2) 来園者の多様なニーズを確実に捉え、適正で柔軟な即座の対応に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要と判断した場合は、管理水準を上回る点検・清掃等の管理作業を積極的に行う 	<p>(1) 公園の魅力向上を図るために、ハマナス保護用のタケズの改修や、海岸付近に自生するツルボの新芽がでるタイミングに合わせた除草により、海浜植物の健全な保全・育成に努めた。</p> <p>また、公園の特徴であるクロマツの剪定を継続的に実施し、景観の保全に努めた。</p> <p>(2) 適正な公園利用の確保のため、夏の時期に利用の多いバーベキュー利用者に対するパトロールを強化し、園外での実施やゴミの持ち帰り等を促した。</p>
2	<p>利用促進方策</p> <p>(1) 利用促進のためのイベントの開催</p> <p>潮風を受けながら景観を楽しむことのできる魅力を活かしたイベントを実施し、利用促進を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海辺の自然観察会 ・海浜植物園芸教室 ・葉山産の魚で干物教室 ・青空クラフト教室 	<p>(1) 海辺の立地を活かした利用促進を図るため、観音崎自然博物館の主任研修員他の指導で海の生物の観察会を6月に開催した。定員30名に対し、28名の親子連れが参加した。</p> <p>葉山公園の魅力を一層普及するため、海浜植物園芸教室（10月以降）および干物教室（11月）を予定しており、実施に向けた準備を行った。</p> <p>また、はやま三ヶ岡山緑地と連携し、更なる利用促進を図るため、親子による巣箱作りのクラフト教室を11月に実施する予定である（巣箱は三ヶ岡山に利用者と共に設置予定）。</p>

(2) はやま三ヶ岡山緑地

	提案内容	実施状況
1	<p>公園における特性と課題を踏まえた維持管理</p> <p>(1) 貴重な緑地と景観の名所を継承し、多様な生物の育成環境を保全する</p> <ul style="list-style-type: none">・ 枯損木処理、枯れ枝・支障枝の除去・ 樹林地の将来像や管理手法について検討	<p>(1) 園内の自然環境を利用者に快適に楽しんでもらうために、園路脇の除草および支障枝の剪定を重点的に実施し、安全性の維持に努めた。</p> <p>また、自生するキツネノカミソリを、次の花の時期に備え、園路脇へ移植し、新たな公園の見所増やす取組みを行った。</p>
2	<p>利用促進方策</p> <p>(1) 利用促進のためのイベントの開催</p> <p>常緑樹の森と豊かな林床植物、多様な生物に触れあえる環境と眺望を活かしたイベントを実施し、利要促進を図る</p> <ul style="list-style-type: none">・ 秋の訪れ観察会・ ポカポカ清掃ハイキング・ 森でおいしい料理教室・ 巣箱をつくろう会	<p>(1) 自然環境を活かした利用促進の取り組みとして、観察会、清掃ハイキングおよび料理教室を10月に予定しており、実施に向けた準備を行った。</p> <p>また、葉山公園と連携し、更なる利用促進を図るため、葉山公園で作成した巣箱を、子供たちと共に、はやま三ヶ岡山緑地内に設置する予定である（3月実施予定）。</p>

4 収支状況

(単位：千円)

		収入額				支出額	収支差額
		指定管理料	利用料金	その他収入	収入合計		
募集時の積算額 (参考)		14,208	—	5,037	19,245	19,245	0
予算額	前年度	14,000	—	12,200	26,200	26,200	0
	上半期	4,024	—	11,000	15,024	13,637	1,387
	下半期	9,976	—	1,200	11,176	12,563	▲ 1,387
	今年度	14,000	—	13,292	27,292	27,292	0
	上半期	3,765	—	10,750	14,515	13,033	1,482
	下半期	10,235	—	2,542	12,777	14,259	▲ 1,482
上半期実績額	4月	1,199	—	568	1,767	1,731	36
	5月	881	—	768	1,649	1,873	▲ 224
	6月	1,685	—	489	2,174	2,044	130
	7月	—	—	2,448	2,448	2,324	124
	8月	—	—	3,664	3,664	2,254	1,410
	9月	—	—	705	705	2,291	▲ 1,586
	今年度 上半期合計	3,765	—	8,642	12,407	12,517	▲ 110
	前年度 上半期合計	4,024	—	7,788	11,812	11,510	302
	対前年度上半期比				5.0%	8.7%	

注：千円未満を切捨てているため、合計は一致しない。

③

収支状況に関する確認等

確認項目	該当	理由等
① 年間予算額における収支差額が0でない	×	該当なし
② 今年度上半期合計欄の収支差額が、収入合計又は支出額のうち低い方の額の1割以上増減がある	×	該当なし
③ 収入額又は支出額が前年度上半期比で3割以上増減がある	×	該当なし
④ その他特記事項		

<参考>

本施設について県が支出した（する）計画修繕工事・各所営繕工事等に係る修繕費等
基本協定において、県が負担することとしている修繕費等：300千円以上

	金額（千円）	工事箇所・内容（金額）
上半期	0	
下半期	0	
合計	0	

今期に行った資本的な収入及び支出等の状況

	金額（千円）	内容
収入	0	
	0	
	0	
	0	
支出	0	
	0	
	0	
	0	
積立等	0（期首）	
	0（期末）	

- 1 収入：定期預金の取り崩し、借入れによる収入等
- 2 支出：車両の購入、施設の増改築、定期預金の積立て等
- 3 積立等：施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等

5 利用状況

(1) 葉山公園

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
4月	11,530 人	8,806 人	30.9 %
5月	16,790 人	11,805 人	42.2 %
6月	12,430 人	10,307 人	20.6 %
7月	13,850 人	11,777 人	17.6 %
8月	18,870 人	14,760 人	27.8 %
9月	14,660 人	11,825 人	24.0 %

	目標利用者数	利用者数	前年同期利用者数	目標対比増減率	前年同期対比増減率
今年度上半期計	83,000 人	88,130 人	69,280 人	6.2 %	27.3 %
今年度下半期計	— 人	— 人	— 人	— %	— %

利用状況に関する確認等

確認項目	該当	理由及び対応策
① 今年度上半期の利用者数が前年同期比で1割以上増減	○	バーベキューを浜辺で行う利用者やマリンスポーツ（シーカヤック、水上ジェット）の利用者が昨年度に比べ増加している。
② 今年度上半期の利用者数が目標利用者数を下回った	×	該当なし
③ その他特記事項		

(2) はやま三ヶ岡山緑地

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
4月	785 人	832 人	▲ 5.7 %
5月	980 人	990 人	▲ 1.0 %
6月	735 人	845 人	▲ 13.0 %
7月	1,060 人	787 人	34.7 %
8月	950 人	667 人	42.4 %
9月	865 人	560 人	54.5 %

	目標利用者数	利用者数	前年同期利用者数	目標対比増減率	前年同期対比増減率
今年度上半期計	4,200 人	5,375 人	4,681 人	28.0 %	14.9 %
今年度下半期計	— 人	— 人	— 人	— %	— %

利用状況に関する確認等

確認項目	該当	理由及び対応策
① 今年度上半期の利用者数が前年同期比で1割以上増減	○	4～6月は団体利用が少なく昨年度を下回った。しかし、夏の時期は、新たに、7月には森林インストラクターの研修、9月にはトレーニングを目的とした団体利用が見られ、利用者数の増加につながった。
② 今年度上半期の利用者数が目標利用者数を下回った	×	該当なし
③ その他特記事項		

6 苦情・要望等の状況

(1) 葉山公園

受付件数

上半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	アンケート	
上段：報告件数	2	2	0	0	0	4
下段：報告件数のうち所管課受付分	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)

(2) はやま三ヶ岡山緑地

受付件数

上半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	アンケート	
上段：報告件数	0	1	0	0	0	1
下段：報告件数のうち所管課受付分	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)

7 特筆すべき苦情・要望等及び対応状況

(1) 葉山公園

分野	概要	対応状況
施設・設備	照明が消えているものがある。早急に修理して欲しい	ブレーカーが落ちていることを確認。その後、毎日の点灯確認を実施。
	週末は、公園への出入りの車が多く、駐車場につながる町道が狭くて、通行しにくい	週末は、管理員が町道を通行する車両が無いことを確認し、公園利用車両の誘導を行っている。
職員対応		
事業内容		
その他		

(2) はやま三ヶ岡山緑地

該当なし

分野	概要	対応状況
施設・設備		
職員対応		
事業内容		
その他		

8 事故や不祥事等の発生状況

(1) 葉山公園

該当なし

発生日	事故等の概要	指定管理者の対応状況	原因・問題点 (指定管理者の課題を含む)

(2) はやま三ヶ岡山緑地

該当なし

発生日	事故等の概要	指定管理者の対応状況	原因・問題点 (指定管理者の課題を含む)

9 随時モニタリングの実施状況

(1) 葉山公園

該当なし

実施日 (事故発生日)	経緯・調査内容	調査結果 (指定管理者の課題の有無等を含む)
()		
()		
()		

(2) はやま三ヶ岡山緑地

該当なし

実施日 (事故発生日)	経緯・調査内容	調査結果 (指定管理者の課題の有無等を含む)
()		
()		
()		

10 今期の実績を踏まえた評価、改善策等

<p><葉山公園> 葉山公園は、景観の保全や魅力向上を図る取組みが行われ、提案どおりの管理運営状況にある。 維持管理に関しては、公園の特徴に配慮した植物の保護育成を適正に実施し、公園の魅力の向上に取組んでおり、継続が望まれる。 利用促進に関しては、立地を活かしたイベントを実施し、利用者層の拡大を図っており、今後も継続が望まれる。 地域との連携に関しては、地域のボランティアと協働した取組みを今期から開始している。下半期には一層の連携強化のため、更なる取組みを行うよう指導したい。</p> <p><はやま三ヶ岡山緑地> はやま三ヶ岡山緑地は、都市林として、良好な自然環境の維持・保全に取組み、提案どおりの管理運営が行われている。 維持管理に関しては、重点的に除草・剪定等を実施し、園路の安全確保に努めるとともに、公園の見所を増やす新たな試みを行っており、今後も継続が望まれる。 利用促進に関しては、下半期の実施に向けたイベントの準備を行っており、今後、確実な実施により、一層利用者が増加することを期待する。 地域との連携に関しては、地域の実情に応じ、ボランティアとの連携を深めるよう指導していきたい。</p>
--